

受領No. 1608

次世代の身体を育んだ洋裁技術の普及：子ども服の洋装化を実現させた母親の学び・ネットワーク形成を中心に

代表研究者 難波 知子（お茶の水女子大学 准教授）

共同研究者 平田麻里子（お茶の水女子大学 生活科学部教育研究協力員）

Dressmaking technology that nurtured the bodies of the next generation: The learning and network of mothers who designed Western-style children's clothes

Representative Tomoko Namba (Associate Professor, Ochanomizu University)

Collaborator Mariko Hirata (Assistant Researcher at the Faculty of Human Life and Environmental Sciences, Ochanomizu University)



研究概要

今から 100 年前の母親たちは、自身は洋服を着用しなかったにも関わらず、子どもに洋服を与えるために洋裁技術を習得し、新しい時代を生きる次世代の身体の育成に寄与した。親から子への「洋服」という文化資本の提供はいかにして実現したのか。欧米からもたらされた新しい技術・文化がいかに評価され、学ばれ、応用されることで社会に浸透し、人びとの生活を変えるに至ったのか。これらの問いについて、母親による洋裁技術の獲得という観点から検証することが本研究の目的である。

子ども服の洋装化は、1920 年前後より積極的に推奨されたが、当時、既製服産業が未発達であったため、家庭において主に母親たちによる子ども服の製作が求められた。本研究では、母親たちが子ども服づくりの知識や技術を学ぶ場・メディアとして、〈子ども洋服講習会〉と〈婦人雑誌〉に注目し、母親たちに洋裁技術を提供した人物・団体と学びのネットワーク形成について明らかにする。

本研究を通して、次世代の身体や衣生活を変えるきっかけをつくった親世代の働きかけ、それを支えた情報・技術の提供者および場（メディア）とネットワークの形成を考察し、理想的な社会の実現のための学びと連携のあり方を探りたい。